

## 研究主題について

### 1 「本好き」とは

本研究では、「本好き」な児童のことを次のようにとらえた。

《「本好き」な児童とは》

読書欲求をもち、それを積極的に満たそうと行動している児童のこと。

読書欲求があり、それに行動が伴っている場合を「本好き」とした。

### 2 「読書習慣」とは

本研究では、「読書習慣」のことを次のようにとらえた。

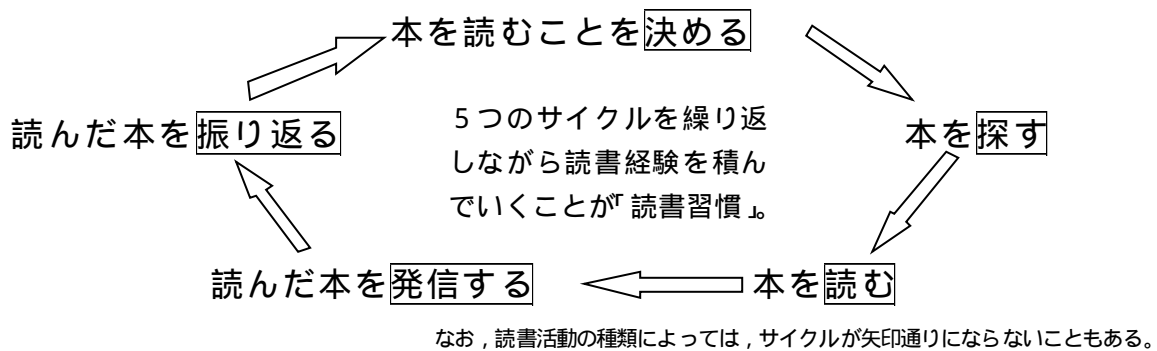
《「読書習慣」とは》

まず「本を読もう」という気持ちになり、棚からその本を探し当てる。次に、その本を最後まで読み、心に残ったことを何らかの形で他者に発信し、最後に、その本を読んでどうだったかということ振り返る。

このサイクルを繰り返しながら読書経験を積んでいくことを「読書習慣」とする。

本校は「読書習慣」を行為レベルで5つに細分化し、「読書習慣を支える5つの行為」としている。具体的には「決める」「探す」「読む」「発信する」「振り返る」という5段階である。そして、下図のように、5つの行為を具体的に行える児童には読書習慣が身に付いたとみなすことにした。

#### 【読書習慣を支える5つの行為】



児童がこの5つの行為を行うことができるようになるために、多様な場で具体的な指導を行ってきた。

この「読書習慣を支える5つの行為」については第 4 章（P24）で詳しく述べる。

## 目指す子ども像

これまでに述べてきたことを踏まえ、本研究における「目指す子ども像の全体像」を次のように設定した。さらに、読書習慣を身に付けた児童の姿をより具体的に想定するために、「学年別・行為別に目指す姿」も併せて設定した。

1 目指す子ども像の全体像

<p><b>読書のよさを理解し，進んで本を選び読書をする子ども</b> 【決める】【探す】</p> <p><b>書かれている事柄をよく理解し，読書を楽しんだり，生かしたりすることができる子ども</b> 【読む】</p> <p><b>読んで分かったこと，深まった考えや気持ちを表現し，読書のよさを再発見できる子ども</b> 【発信する】【振り返る】</p>
---

2 学年別，行為別に目指す姿

		低 学 年	中 学 年	高 学 年
本と出会う	決める	「楽しむために読もう」として決めた本を，	「読書の分野を広げよう」として決めた幅広い読み物を，	「自分の考えを広げたり深めたりしよう」として決めた必要な図書資料を，
	探す	題名や見出し，作者名を手がかりにしたり，人にたずねたりして探す。	保管場所を手がかりにしたり，図書目録や検索コンピュータを活用したりして探す。	これまでに身に付けた検索技能を効果的に活用しながら，多様な方法で探す。
本を読む	読む	絵や写真等を見て，想像をふくらませながら読む。	叙述に即して，内容の中心をとらえながら読む。	内容や要旨を把握しながら読む。
本を生かす	発信する	好きなところや興味をもったことを知らせ合いながら，	本の内容やジャンルについて，相手が引き付けられるように工夫して発信しながら，	自分にとって価値のある書物や事柄を工夫して発信しながら，
	振り返る	メモした読書記録に基づいて読書経験を振り返る。	簡単な記録に基づいて読書経験を振り返る。	記録に基づいて読書経験を振り返る。

「資料編」P 6 3 参照

## 研究仮説について

### 1 研究仮説 1

多様な場で意図的・継続的な読書活動を体験させることによって、本好きな児童を育成することができるのではないか。

研究仮説 1 は主に「読書環境の整備」についての内容であり、研究主題の「本好き」に関わるものである。「時間，場，人」の 3 方向から読書環境の質を向上させることで、児童をより多くの読書活動にひたらせ、読書の楽しさを味わわせることをねらう。

この仮説に対しては、下記の 3 つの視点からアプローチしていった。

- 【視点 1】読書のための時間の確保 ( 時間 )
- 【視点 2】教室内外の読書環境の整備 ( 場 )
- 【視点 3】大人の手による読書活動への誘い ( 人 )

### 2 研究仮説 2

授業の中で適切な読書指導を行うことによって、読書習慣を身に付けさせることができるのではないか。

研究仮説 2 は主に「読書習慣の育成」についての内容であり、研究主題の「読書習慣が身に付いた子ども」に関わるものである。国語科の授業における読書指導を工夫改善することで、児童に読書習慣を身に付けさせることをねらう。

この仮説に対しては、下記の 3 つの視点からアプローチしていった。

- 【視点 4】読書習慣を支える「5 つの行為」の設定
- 【視点 5】「5 つの行為」と国語科の指導内容との関連の明確化
- 【視点 6】学んだ読書習慣を具体的に指導する場の設定

次に、これらの 6 つの視点に基づきながら本校が実践してきた具体的な取組について述べる。